

美協

鹿沼市美術協会

鹿沼市美術協会会報
第19号
2003年5月発行



「孫という名の宝物」

衆議院議員
小林 守

孫が生まれました。事情でそうならない人もいるでしょうが、お許し下さい。一カ月ぐらいたって初対面しました。生まれてからも、ずいぶん成長していました。何んでもわかってしまうような顔もしました。長男が一人で考えたようです。孫の名前は、「未来」と知らせました。最初は、ちょっと置くような響きがありました。だん／＼いい名前だと思えてきました。私の政治信条の一つに「未来への責任」があります。

次の世代への政治の責任として、地球環境の保全・国や地方の財政問題・そして年金問題を解決しなければなりません。孫が生まれて、未来ちゃんなので、

すから、急転直下、具体的な孫への責任でもあります。それにしても「過子」でなく、よかつたなと思えます。政治には過去への責任もあります。韓国ではノムヒョン大統領が就任しました。北東アジアの平和と共生を願っています。日韓中、そして、やがては北朝鮮も加えて、北東アジアの共同体がEJ11のように発展することを願っています。そうであればこそ、日本は過去への責任を一步省ろて、自覚しておかねばなりません。ドイツの元大統領・ワイツゼッカーは「過去に目を閉ざす者は、未来に対しても盲目である。」と語っています。

孫が生まれたと知らされただけで、ジーンとしてきました。なぜこんなに「かわいいんだらう」と考えます。歌にもあるように「宝物」です。でももっと考え続けていきたいと思えます。殺生はしたくないと思いましたが、いけないことだとわかりました。虫ケラさえ有難いと思えました。これを期にタバコはやめようか、これからもっと考えてみることにしました。少なくとも孫の傍では禁煙です。女でも男でもいい、孫は孫です。いのちの連鎖なのです。初めて抱いてみてそう思いました。もうこれからは、いのちの連鎖に絶えて、いつ死んでもいいのだと思うことができそうです。世界はいま暴力の連鎖がはびこっています。同時多発テロ以来、恐怖と憎悪が暴力の連鎖反応を生み出し続けています。ブッシュのイラク戦争が始まり、フセイン政権が倒れたとしても、ついに勝利する者は誰もいないでしょう。暴力の連鎖を暴力で断ち切ることはできません。これが、二十一世紀までに迫り迫いた人類がようやく到達した知恵であります。それが国連憲章を生み、国際人権規約となったのですが、アメリカのブッシュ政権は、それをもう一度こわして、世界帝国になろうとしています。アメリカの悪夢はついに、合理的な愚か者として



（二〇〇三年 三月一日）

終わるでしょう。世界の文明も文化も人間も、アメリカが考えるほど単純でおバカさんではありません。生物は多様だから強いのです。多様で微妙な生態系のバランスの中で、三十六億年の生と死の歴史を積み重ねてきて、今があるのであります。賢士人は、生命の連鎖のことを「順次生」と言いました。世代を継承して生かされている人間存在の偶然と必然のありがたさを、他方本論と言いました。例えば、それを噛みしめ、抱きしめてみるのが暴力の連鎖に立ち向かい、断ち切ってゆく方になるのではないのでしょうか。それが未来への責任を果たしていく道ではないでしょうか。